

四組 今道周雄

暫く歌を詠む気にならなかつた。師につく事もなく我流で詠んだ稚拙な歌に嫌気がさしてしまったからだ。しかし、随時断片的ではあるがごころの中を吐き出すには歌がよい。この歳では、巧拙を気にする必要はない、と思ひ直した。

● 捨てられし田圃に茂る草見ればブラジルめざせし蒼氓をおもふ

古い全集本の「石川達三」の「蒼氓」を読んだ。昭和の初期まで棄民政策が取られていたことに愕然とする。移民した人々が、もし、豊かな田圃が捨てられているのをみたら、どの様に思うだろうか。

● 秋津とぶ足柄の野に秋来たり青空渡るひと刷毛の雲

今までは入道雲しか見当たらなかつた空に、巻雲がただよい始め、漸く秋になるのだなという気持ちにさせてくれる。

● 古の旅人ゆきし足柄野ゆく手きびしき箱根の山よ

足柄街道を行く旅人は「函谷関」も物ならずと読まれた箱根越えの道を辿らなければならない。秦が中国統一を図るには、「函谷関」を超えて北へ進まなければならない。

● AIの先行き憂い開きたる哲学の書はわれに答えず

人間並みの会話を可能にした生成 AI は加速度的に発展の速度を速め、本来なら人間がやるべき領域を侵し始めている。「人間とはそもそも何なのか」と言う哲学的問いに答えるべく精進しなければならぬ。

● 待つときは長き時間もひたすらに打ち込むときは斯くも短し

久し振りに歌作りを始めたら、知らぬ間に時間が過ぎていた。

● ただならぬ暑さの夏はすぎゆけど大和の四季は最早戻らず

今年の夏は実に暑かつた。亜熱帯の気候に近い。雨は降れば豪雨で、台風でも無いのに各地で氾濫が続いた。小田原でも五億円以上の損害を受けたという。